

### A-2-3) 破裂頭蓋外後下小脳動脈瘤の1例 Ruptured Extracranial Posterior Inferior Cerebellar Aneurysm

山口日出志・西谷 幹雄 (函館脳神経外科)  
井出 渉 (病院脳神経外科)

今回、我々は頭蓋外にて VA より分岐した PICA の頭蓋外屈曲部に発生した動脈瘤を経験したので文献的考察を加え報告する。症例は、70歳女性。突然の激しい頭痛にて発症し直後に意識消失、他医を受診し、覚醒後当院に搬入された。搬入時 CT にて広範囲に SAH を認め、AG を施行したが動脈瘤は同定できなかった。第1病日の CT にて左小脳橋角部に SAH が強く残存し、再度 AG を施行し、左 VAG にて、左 VA の頭蓋外にて分岐した左 PICA の頭蓋外屈曲部(第1、第2頸椎間レベル)に動脈瘤を認めた。第3病日に後頭下開頭及び第一頸椎椎弓切除によりクリッピング術を施行した。通常、PICA の動脈瘤は VA との分岐部に発生し、末梢部の動脈瘤の頻度は少ない。さらに頭蓋外 PICA 末梢部動脈瘤は、caudal loop が頭蓋外に出たところに発生した動脈瘤の報告は散見されるが、頭蓋外 VA より分岐した PICA の頭蓋外走行部に生じた動脈瘤は極めて稀である。

### A-2-4) 傍正中視床中脳梗塞を来した脳底動脈解離性脳動脈瘤の1例

福多 真史・栗田 勇 (新潟中央病院)  
高橋 祥・岡田 耕坪 (脳神経外科)

症例、48歳、男性。突然の意識障害にて発症。入院時昏睡状態(E1, V1, M2)、痛み刺戟にて両側除脳硬直姿勢、瞳孔不同(右>左)、右対光反射減弱、左角膜反射の低下、人形の目現象では水平方向は陽性、垂直方向は陰性など多彩な脳幹症状を呈した。入院後1時間ほど意識障害は急速に改善し、ほぼ清明となるが、軽度の左上肢のしびれ感、垂直眼球運動障害を残した。翌日の CT にて両側視床内側部と左中脳被蓋部から左小脳半球にかけて低吸収域を認め、脳血管撮影にて double lumen sign を呈する脳底動脈解離性脳動脈瘤を認めた。その後左上肢のしびれ感、上方注視麻痺は徐々に回復し、約3カ月後下方注視麻痺を残して退院した。本例は Castaigne らが報告した傍正中視床中脳梗塞の範疇に入ると思われるが、傍正中視床中脳梗塞の症例で脳底動脈の解離性脳動脈瘤を認めた例の報告はなく、我々の例が初めてと思われるので、脳血管撮影所見の経時的変化を中心にここ

に報告した。

### A-2-5) 後大脳動脈の解離性動脈瘤の1例

佐々木 修・小泉 孝幸 (桑名病院脳神経外科)  
伊藤 靖・藤井 幸彦 (外科)  
小池 哲雄・田中 隆一 (新潟大学脳研究所脳神経外科)

軽症頭部外傷に関連して発生すると思われる後大脳動脈の解離性動脈瘤の1例を経験したので報告する。患者は40歳の男性、車運転中右側頭部を打撲、来院。神経学的には軽度の頭痛以外異常なし。翌日には、頭痛消失、仕事に復した。CT では右迂回槽に小さな HDA を認めた。1カ月後、右側頭部痛出現、CT で病変の増大と density の増強、MRI で血栓と signal void を認めた。angio では、右 PCA の P3 部に紡錘状動脈瘤を認め、intimal flap、造影剤の停滞所見も見た。症状の乏しいことより、保存的に加療、CT 上 density の減弱を確認した。しかし、1カ月後、再度頭痛が出現、density も増強。angio では動脈瘤の増大と double lumen を見た。壁内出血を繰り返す解離性動脈瘤の診断で、手術的に proximal ligation を行なった。術後経過は良好で、1カ月後無症状で退院した。CT、angio で動脈瘤の血栓化が確認された。血管解離の機序は、テントによる血管壁の直接損傷と推測した。

### A-3-1) 後下小脳動脈末梢部解離性動脈瘤の1例

西野 晶子・佐藤 博雄 (国立仙台病院脳卒中センター脳神経外科)  
新妻 博・桜井 芳明 (脳神経外科)

くも膜下出血にて発症した後下小脳動脈末梢部解離性脳動脈瘤の稀な1例を報告する。症例は51歳、女性。突然の激しい頭痛と嘔吐にて発症し、CT で後頭蓋窩に強いくも膜下出血、脳血管写で左後下小脳動脈末梢部の tenlovelotonsillar segment に動脈瘤を認めた。左後頭蓋窩開頭による動脈瘤の摘出術を施行した。動脈瘤は血管分岐部を含む fusiform 型であり、摘出動脈瘤の組織所見では内膜の著明な肥厚と内弾性板の低形成と断裂、中膜筋層の低形成を認め、内弾性板と中膜間で解離が起こり、分岐部にて外膜を破って破裂していた。文献的に渉猟すると、頭蓋内解離性動脈瘤の発生部位は、内頸動脈、中大脳動脈近位部、椎骨脳底動脈が大部分であり、非主幹動脈末梢部、特に後下小脳動脈皮質枝の解離性動